

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	リカバリーきくがわ		
○保護者評価実施期間	令和6年 6月 3日 ～ 令和6年 6月 28日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数) 16
○従業者評価実施期間	令和年 6月 3日 ～ 令和6年 6月 28日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年 7月 5日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	支援の方向性について職員間で共通認識がとれるようになり支援に表れてきた。	視覚的支援を導入し、自己選択・自己決定・意見の表出に繋げている。	「社会の中の自分」を本人及び保護者と一緒に考え、支援に繋げていく。
2	定期的な職場ミーティングによりチームビルドに繋がっている。	意見の出しやすい職場環境の構築。	ファシリテーション技術を身に付け、職員の意見を更に引き出し、職場の活性化を図る。
3	関係機関との積極的なコミュニケーションにより、関係性の構築に繋がっている。	効率よりも回数を重視し、各担当者とコミュニケーションをとっている。	確実なアポイントによるプレゼンテーションの実行。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者会や保護者参観会ができていない。	開催の必要性についての落とし込みが不足していた。率先して行動できる人材がいなかった。	1人ひとりが自分事として捉える事ができる組織作り。
2	関係機関への事業所カラーの浸透。	事業所カラーを確立する事の必要性が事業所内で共有できていない。	保護者や関係機関のニーズを把握し、必要な支援プログラムの精査と協力者の選定。
3			